

南河内小中学校区

【目指す子ども像】

・自ら学んで高め合う子 ・心豊かで助け合う子 ・体を鍛えやり抜く子

【実践研究課題】

対話に必要な表現を身に付ける授業の創造と全教育活動での実践をととして、人とのつながりを大切に、よりよい人間関係や集団を形成しようとする児童生徒の育成

各部会の取組

<学習指導部会>

【児童生徒の実態】

「学校が楽しい」と感じている児童生徒の肯定的回答は、高い数値を示している。一方、基礎学力の定着や主体的に表現できる能力（コミュニケーション能力）については、個人差が大きい。目的を明確にした対話活動の充実を図り、伝える力を高めていくことが課題である。

【部会のねらい】

小中一貫校として、各校で積み上げてきたコミュニケーション能力をもとに、主体的に表現するために必要な「伝える力」をさらに向上させていく。そのために、小中一貫校の良さを生かしながら、全職員で「目指す児童生徒像」の共通理解を図り、系統的な指導の実践や学び合う教員集団づくりを目標とする。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者を招聘しての研修(1回) ・視点を明確にした研究授業の実践 S&Uコラボ(前期算数1回・後期数学1回) 前期後期課程合同での指導案検討・研究協議 ・小中一貫の日研修の実施 ・校内授業公開期間の設定(全クラス公開・教科自由)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業では、前後期課程合同で指導案検討や研究協議を行い、同じ目標を持って学ぶことができた。また、年3回の公開授業期間でそれぞれの学年の授業の様子や児童生徒の実態を知ることができた。それぞれの発達段階にあわせた指導方法についても学ぶことができ、9年間を見通した学習について考えるよい機会となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、主に統合前の4校の「お互いの実践状況を知る」ことを最大の目標にしてきた。次年度は、学んだことを自分の指導に生かすことを中心に研修を行いたい。 ・学校課題を共通理解した上で研修を進めてきたが、「目指すべきゴール」が十分に認識されていない部分があった。次年度は、全職員が同じゴールを目指し、一つになって取り組めるよう、研修方法を工夫したい。



前後期課程 合同研究授業



前後期課程 合同授業研究会

<特別活動部会>

【児童生徒の実態】

異学年との交流に抵抗が少なく、思いやりをもって活動することができる。一方、その場の状況を判断し、自ら考えて行動する力が十分でない児童生徒が多く見られる。

【部会のねらい】

異学年活動を通して、望ましい人間関係の形成を図るとともに、自覚や責任、思いやりや協力する気持ちを育む。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	・子ども未来プロジェクトと連動した「つながり」をテーマとした異学年交流の実践。
成果	・全校共遊を中心とした異学年活動を実践したことで、発達段階に応じてリーダーシップを高めるとともに、思いやりや協力する気持ちを育むことができた。
課題	・共遊活動のみに限定せず、児童生徒から様々なアイデアを募り、より多くの場面で異学年活動を取り入れる必要がある。発達段階別の各ブロックを活用する等、活動形態を工夫することで異学年交流の機会をさらに増やしたい。



1～9学年 全校共遊(話し合い)



1～9学年 全校共遊(活動)

<児童生徒指導部会>

【児童生徒の実態】

素直で穏やかな児童生徒が多く、休み時間には児童生徒と一緒に遊ぶ様子も多く見受けられる。一方、あいさつや返事の声がかさったり、できなかったりする児童生徒も見られる。また、自分の考えや意見を伝えることが苦手な児童生徒も多く、課題が見られる。

【部会のねらい】

あいさつがあふれ人とのつながりを大切にし、いじめを許さない心を育む。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	・あいさつの意味や、よいあいさつについて考えさせる。 ・いじめ防止強調月間に前後期課程の交流の機会をもつ。 ・縦割りでの共遊において異学年交流をする。
成果	・いじめ防止強調月間で、前後期課程がともにいじめについて話す機会を設けることができた。 ・縦割りでの共遊により、幅広い年代と接することができ、コミュニケーションをとることができた。
課題	・自らあいさつできる児童生徒がまだ少ないので、継続して指導していく。 ・義務教育学校の良さを生かし、前後期課程がさらに関わる機会を増やす。



いじめについての各クラスでの話し合い



いじめについての児童生徒の話し合い